



「工作機械検定制度創設のための 調査研究」補助事業 結果報告

この事業は競輪の補助を受けて実施しました。

我が国工作機械産業にとって、高精度・高効率な加工技術やIoT化等の技術革新に対応して、専門知識と技術を備えた人材確保・育成が喫緊の課題となっている。このため、理工系学生始め、広く社会一般における工作機械業界に対する認知度向上が不可欠となっている。

こうした状況を踏まえ、工作機械業界の認知度向上のための、工作機械検定制度を創設すべく、平成29年度（公財）JKA・機械振興補助事業として、「工作機械検定制度創設準備検討」事業を実施した。

1. 検討内容

- (1) 受験対象者
- (2) 問題内容及びその水準
- (3) 実施方法
- (4) 検定実施による効果・測定方法
- (5) インセンティブ
- (6) 広報のあり方 等

2. 検討結果（結論）

- (1) 正式名称 「工作機械検定」
通称「MT検定」
- (2) 検定対象及び等級
 - ①初級：工作機械を知らないレベル
(一般人対象)
 - ②中級：大学、高専レベル
 - ③上級：専門性の高いレベル
(大学・高専以上を対象)

【2018年度は、初級、中級から実施して、
上級は2019年度以降実施予定】
- (3) テキスト 堤委員長と事務局にて検討
- (4) 問題作成 坂本委員、津上委員
- (5) 実施時期 JIMTOF・Tokyo2018会期中

(6) 実施方法

- ①初級：インターネットで問題を入手、
回答は郵送
応募はJIMTOF・Tokyo2018会
期終了まで
- ②中級：初回は工作機械トップセミナー
(JIMTOF・Tokyo2018) に併
せてプレテスト（試行）と位置
づけて実施
(試験会場は特別に設けない)

(7) インセンティブ

- ①合格者には認定証（初級は希望者、中
級は全員、中級はプレテストのため認
定書もプレ認定証）を授与
- ②希望者には企業の工場見学に招待等

(8) 広報

- ①大学関係者にオープンキャンパスでの
検定パンフレット配布を要請
- ②機械産業関係の展示会（モノづくり展）
等を活用しての広報 等

3. 委員構成

- 委員長 堤 正臣 東京農工大学 名誉教授
- 委員 五十嵐敏裕 東芝機械(株) 技術・品質本部 技師長
- 〳 木越 清彦 中村留精密工業(株) 常務取締役
- 〳 坂本 重彦 熊本大学 准教授
- 〳 佐藤 圭介 日刊工業新聞社 事業局・イベント部副部長
- 〳 長谷川聖治 読売新聞社 東京本社編集局次長
- 〳 津上 邦夫 (一社) 日本工作機械工業会 前事務局長
- 〳 丸目 敏也 経済産業省 製造産業局 産業機械課生産機械一係長

